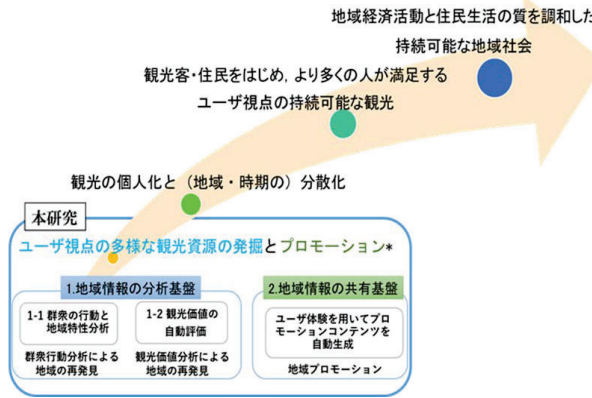


観光の個人化・分散化を実現するためのユーザ生成コンテンツの統合分析・共有基盤の構築

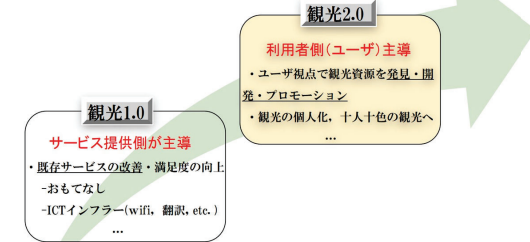
馬 強 京都大学

概要

本研究では、観光の個人化と（地域・時期の）分散化を実現するため、ユーザ（観光客や地域住民）の生の声であるUGC (User Generated Contents: ユーザ生成コンテンツ) を用いて、様々なユーザの多様なニーズに応えるための地域特性・資源を分析・発掘・共有するための情報基盤を構築しています。これにより、多様な観光ニーズに応え、観光客と地域住民などの利害関係者を始め、より多くの人々が満足できる観光社会の構築につながります。さらに、これらを通じ、持続可能な観光立国や地域社会の実現に貢献していきます。



ユーザ（住民+観光客）目線の多様な資源の発掘による観光の個人化と分散化！



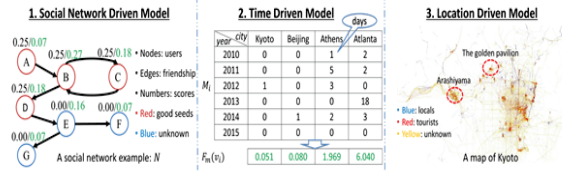
大規模・高精度・低コスト・タイムリーなユーザ調査・分析を実現

地域情報の分析基盤: 地域観光知の編纂

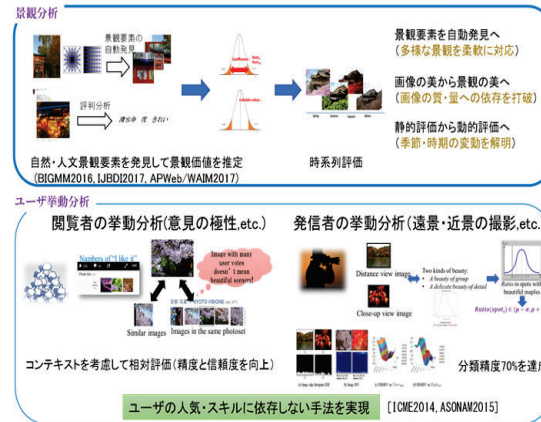
地域活動で生成・発信されるUGCを対象に、ユーザの特性と行動パターンの分析技術と地域の観光価値の自動評価技術を開発しています。これによって、訪問者の特性分布に基づき推定する地域の人気度と観光価値の二つの軸から地域を再発見して穴場スポットなどの多様な観光資源を発掘し、多様な観光ニーズに応え得る観光の個人化を支援するとともに、地域活性化や地域負担の軽減を目的とした観光の分散化を実現することが可能となります。

ユーザと地域の特徴分析モデル

ユーザの地域への熟知度分析 (MTAP2016, ACM SIGSPATIL2015)



地域観光価値の評価・分析モデル



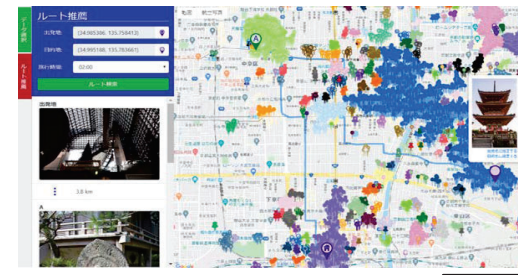
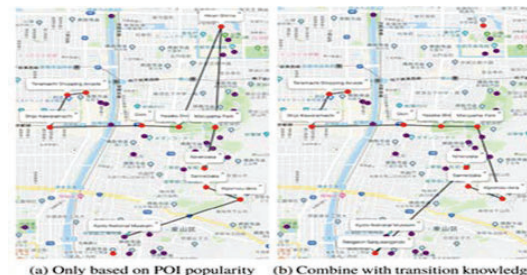
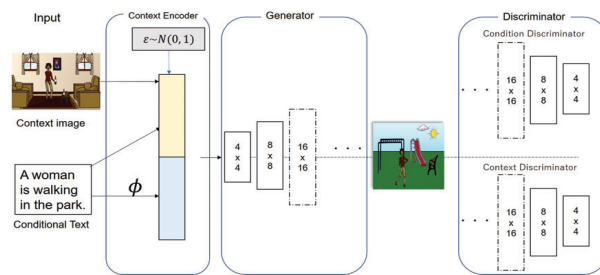
“質” (観光価値)



だれにとって人気なのか、どこで、なにが観れるかを分析！
世界初の観光価値の自動評価技術！

地域情報の共有基盤: 地域観光知の利活用

UGCから得られた地域観光知を用いて、ユーザ体験に基づいて地域観光のプロモーションや推薦を行う技術について研究開発を行っています。観光地のプロモーション用の画像を自動生成するためのContext-aware GANの研究開発や、探索型観光推薦システムE-Tripの構築を行っています。日本の豊富で多様な観光資源の価値をユーザ体験の形で例示して観光地プロモーションや推薦の行い、解釈可能な観光推薦を実現していきます。



わがままや冒険・探索のできる観光へ！